

略

〔源平盛衰記 二十〕石橋合戰事

與一田義貞佐奈ガ乗タル馬ハ、白葦毛太逞ガ七寸ニ餘テ、鼻ノサキ瓠ノ花ノ如ク白カリケレバ、名ヲ
 バ夕。貌ト云、東國一ノ強馬也、モト三浦介ガ許ニ有ケルガ、餘ニ強テ輒乗者モナカリケルヲ、岡崎
 所望シテ乗ケルガ、ソレモ進退シ煩タリケルニ、與一計ゾ乘隨タリケル、去共岡崎持和テ三浦へ
 返タレバ、本ノ栖へ歸タリトテ都返リト名付タリ、佐奈田折節馬ナクテ、又乞返タレバ、古巢へ歸
 タリトテ鶯共呼ケリ、元來ツヨキ馬也ケレ共、己ガ力ヲ憑ツ、出雲轡ノ大ナルニ、手綱二筋ヨリ
 合テゾ乗タリケル、

〔源平盛衰記 三十四〕東國兵馬汰并佐々木賜生、嘜附象王太子事

鎌倉殿ノ侍所ニテ評定アリ、合戰ノ習敵ニ向城ヲ落スハ、案ノ内ナリ、大河ヲ前ニアテ、兵ヲ落サ
 ン事、ユ、シキ大事也、都ニ近キ近江國ニハ、勢多ノ橋、其流ノ末ニ、山城國ニハ、宇治橋二ノ難所ア
 リ、定テ橋ハ引ヌラン、河ハ底深クシテ流荒シ、ナベテノ馬ノ渡スベキ川ニ非ズ、其上河中ニ亂杭
 逆茂木打、水ノ底ニ大綱張流カケヌラシ、ヨキ馬共ヲ渡テ、宇治勢多ヲ渡シテ、高名アルベシトゾ
 被議ケル、斯リケレバ、大名小名黨モ高家モ、面々ニ其用意アリ、上總國住人介八郎廣經ハ、礮ト云
 馬ヲ引セテ參タリ、下總國住人千葉介經胤ハ、薄櫻ト云馬ヲ引ク、武藏國住人平山武者所季重ハ、
 目糟馬トテ引ク、同國澀谷庄司重國ハ、子師丸トテ引タリ、畠山庄司次郎重忠ハ、秩父鹿毛、大黒人
 妻、高山葦毛トテ引タリ、相摸國住人三浦和田小太郎義盛ハ、鴨ノ上毛、白浪トテ引タリ、伊豆國住
 人北條四郎時政ハ、荒礮トテ引タリ、熊谷次郎直實ハ、權太栗毛トテ引タリ、大將軍九郎御曹子ハ、
 薄墨、青海波トテ被引タリ、同蒲御曹子ハ、一霞月輪トテ被引タリ、是等ハ皆曲進退ノ逸物、六鈴浦
 艾ノ駿馬、強事ハ獅子象ノ如ク、早キ事ハ吹風ノ如シ、サレバ越後越中ノ境ナル姫早川ト、利根川